



# 救済

1月10日

Sudden Fiction Project

高階經啓  
hirotakashina

## 1月10日のおはなし「救済」

---

生まれたばかりを1歳と数えるのは数え年だ。満年齢というのは誕生後、最初の誕生日をもって1歳とする。ここにある若者がいて、数えではもう21だが、その実ようやく二十歳になったばかりである。生まれて間もなくは、どんな子どもでもみなそうだが、それほどマッチョというわけではなかった。むしろやや女性的と言っていいところもあった。少なくとも、生まれて間もないころまでは。

その女性性こそが彼の魅力でもあり、人々を引きつけたところでもあった。けれども「男は男らしくあれ」と求める力は強く、年を経るに従って彼本来の魅力は薄れ、代わりに厳格であらあらしくいささか理不尽な形で人々を従わせるようになってきた。彼がはっきりとマッチョな道を踏み出したのは、4歳の頃のことだった。そのころ「芸術志向」や「自然志向」をめめしいものと断じて切り捨てたのだ。

彼が6歳の頃に生まれた弟は、後にもっとマッチョな道を歩み最大のライバルとなっていく。その予兆は早くも翌年あたりから見られるようになり、そのためもあって、彼自身のマッチョ志向もいっそう先鋭化されて行った。10歳からは機会あるごとに弟と激しく争うようになり、まだひ弱な弟を何度もおとしめたが、13歳になるころには力をつけた弟に圧倒されるようになり、これ以上手を出せなくなってしまった。

思春期には、本来持ち前の魅力であった女性性を極端にまで忌み嫌うようになり、常軌を逸した規律を設けて、徹底的にこれを封じ込め、マッチョな道を突き進むことになる。そしてご多分にもれず15歳頃にはアイデンティティの危機を迎え、以後多重人格気味なパーソナリティを形成していく。16歳になるころからそれまで触れたことのない世界に目を向けるようになり、放浪を繰り返した。

いままで見たことのない人々に出会い、考え方に触れ、芸術を鑑賞し、それらをどん欲に吸収した。それは彼にとって、もう一度自分を見直す最後のチャンスだったかもしれない。でもこのチャンスをもものにすることはできず、以後、マッチョな上に功利的な性格をむき出しにし、出会ったものたちを次々に打ち倒す振る舞いに出始める。芸術を愛し、自然を愛していたころがあったことなど、もう誰も覚えていなかった。

こうして二十歳になるまでには、望み通り強大な力をつけマッチョな若者となっていた。生まれたばかりのころは虐げられる側にいたが、いまや虐げる側に回っていた。一方、その陰では宿敵と化した弟のみならず、女性からも敵視され、友人になり得たかもしれない人々からも、たくさんの恨みを買って、絶えず批判にさらされ、時には思いもかけない暴力を振るわれるようになった。

けれど二十歳を目前にして、若者にもいくつかの変化が起ころうとしていた。ようやくマッチョな流儀の限界に気づき、あるいは、遅まきながらマッチョ以外の振る舞いをするためのロールモデルを見つけようと試み始めた。彼は変わるかもしれない。女性性を取り戻し、力任せではないやり方を身につけ、成人をもって次の段階へ成長するかもしれない。誰もが半ばそう信じかけていた。

二十歳になりたてのある日、彼は恨みを抱えた者に襲われた。マッチョだった彼への怒りは理不尽な暴力として彼を襲い、その結果、彼の成長は望めなくなった。彼はまだ二十歳を迎えたばかりだ。すでに恐ろしいほどの力をつけたが知恵はあまりない。力と金しか信じていない。他者との対等な関係の築き方も身につけていない。でもまだ終わりではない。成長の余地はある。

生まれたばかりを1歳と数えるのは数え年だ。満年齢というのは誕生後、最初の誕生日を持って1歳とする。21世紀とはつまり、数え年の数え方。満年齢で言えば、キリスト教の世紀はいままさに満二十歳になったところだ。成人を迎えたばかりの彼はいま、救済を待っている。ゆがめられ

たパーソナリティーの修復を。封じ込め、外見上失われたキャラクターの復活を。

(「二十歳」 ordered by あやこ--san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 感謝の言葉と、お願い&お誘い

---

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

## 救済

<http://p.booklog.jp/book/41902>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41902>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41902>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.